

予算特別委員会会議録

令和 5 年 3 月 2 日

宮 古 市 議 会

宮古市議会定例会令和5年3月定例会議 予算特別委員会会議録目次

(3月2日)

議事日程	1
出席委員	2
欠席委員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
付託事件審査(1)	3
散 会	8

宮古市議会予算特別委員会会議録

日 時

令和5年3月2日（木曜日）午後1時10分

場 所

議事堂 議場

事 件

〔付託事件審査〕

（１） 議案第51号 令和4年度宮古市一般会計補正予算（第16号）

出席委員（１８名）

竹	花	邦	彦	委員長
畠	山	智	章	委員
古	舘		博	委員
今	村		正	委員
木	村		誠	委員
小	島	直	也	委員
高	橋	秀	正	委員
坂	本	悦	夫	委員
落	合	久	三	委員

田	中		尚	副委員長
田	代	勝	久	委員
中	嶋	勝	司	委員
白	石	雅	一	委員
畠	山		茂	委員
伊	藤		清	委員
工	藤	小	百合	委員
長	門	孝	則	委員
松	本	尚	美	委員

欠席委員（３名）

西	村	昭	二	委員
洞	口	昇	一	委員

鳥	居		晋	委員
---	---	--	---	----

説明のための出席者

付託事件審査（１）

総務部長	若	江	清	隆	君
都市整備部長	藤	島	裕	久	君
企画課長	箱	石		剛	君

企画部長	多	田		康	君
財政課長	田	代	明	博	君
建設課長	去	石	一	良	君

議会事務局出席者

事務局長	佐々木	雅	明
主査	小笠原	長	生

次長	前	川	克	寿
----	---	---	---	---

開 会

午後 1時10分 開会

○委員長（竹花邦彦君） ただいままでの出席は、17名であります。定足数に達しておりますので、これから予算特別委員会を開会いたします。

審査に入る前に申し上げます。

本日の案件は、付託事件審査1件となります。審査はお配りしております審査日程のとおり、議案第51号 令和4年度宮古市一般会計補正予算（第16号）の審査となりますので、よろしくお願いをいたします。

発言及び答弁は、一問一答方式をお願いをいたします。発言の時間につきましては、質疑答弁を含め1人20分以内といたしますので、質疑答弁とも簡潔明瞭をお願いをします。なお、必要がある場合には2巡目まで行います。当局においては場合によっては反問権も認めますので、よろしくお願いをします。

○

付託事件審査（1） 議案第51号 令和4年度宮古市一般会計補正予算（第16号）

○委員長（竹花邦彦君） それでは、審査を行います。

審査は歳入歳出一括で行います。発言をされる方は議案書のページ、款項目等を特定をして発言をしてください。

それでは、発言をされる方は挙手願います。

それでは、3名ですね。3名、以上でよろしいですね。

それでは畠山委員。次は落合委員です。

畠山委員。

○委員（畠山 茂君） 着座でお聞きいたします。

私は、この補正予算資料の歳出内訳の中からちょっとお聞きしたいと思います。

令和4年度一般会計補正予算第16号、歳出内訳。8款2項2目の道路維持費の、事業で言うと道路維持費の除雪分のやつです。

今回補正で2,050万円ほど増額ということなんですが、これを見ると、予定が1億3,200万円ほどだったんですが今回2,050万円ほど増額をして、補正後は1億5,300万円ほどの金額になります。お聞きしたいのは、今回あと1か月ぐらい今年度あるわけですけど、何回ぐらいの除雪を大体予定をして今回増額をするのかなというところです。確かに宮古市広いので、かなり地域差が、降るところ降らないところあると思うんです。この歳出根拠を教えてくださいと思います。

○委員長（竹花邦彦君） 去石建設課長。

○建設課長（去石一良君） お答えいたします。

今回2,050万円の委託費の補正を計上してございますが、現在、執行残が500万円ほどございます。そして、今回の補正、追加の部分で2,050万円、合計2,550万円を予定してございます。積算根拠でございますけども、市全域に降雪があって、全体が一斉に出動する場合ですね、およそ10時間の除雪時間がかかりまして、大体2,000万円から2,200万円ほどの経費が委託料がかかってございます。まずもう1回大きな大雪が来るだろうということでその分を考えてございます。それ以外に山間部、部分的な除雪も多少生じますので、その部分をおよそ300万円程度と見て、今回不足する2,050万円を計上させていただいたところでございます。

○委員長（竹花邦彦君） 畠山委員。

○委員（畠山 茂君） 理解をいたしました。

確か、出動の基準は10センチ以上降った場合というふうに認識をしてるんですけど、確かに地域差もかなりあると思います。今回は取りあえず、全域に1回降った分と予測したということで、仮にもっと降れば、もう1回ということもあるんですね。理解いたしました。終わります。

○委員長（竹花邦彦君） 落合委員。座ったままどうぞ。

○委員（落合久三君） 第1号もいいんですっけか。今はその前のやつね。

○委員長（竹花邦彦君） 第16号の補正予算です。今審査をしているのは、令和4年度一般会計第16号。午前中に、お昼の時間帯に提案をされた補正予算でございます。

○委員（落合久三君） 今はいいです。なし。

○委員長（竹花邦彦君） いいですね。

松本委員。

○委員（松本尚美君） ごめん。ごめんなさい。別のところ見てたんで、飛んでしまいました。議案のところ。さっき説明もあったけども、どれだ。

○委員長（竹花邦彦君） どうぞ落ちついてタブレットを操作してください。

○委員（松本尚美君） 了解。

51の4、51の5。

ちょっと確認をさせていただきます。歳出のほうですけれども、2款総務費、1項総務管理費、9目が地域振興費で、寄附金ということで400万円。今回、トルコ・シリアの地震ということは、説明受けて理解はしてるんですが、ここに来る寄附金が地域振興費という、地震のお見舞い金と地域振興というのと、ちょっとこうなかなか、私の頭の中ではつながらないんですけれども、ここはどういう理由でしょうか。

○委員長（竹花邦彦君） 箱石企画課長。

○企画課長（箱石 剛君） 2款1項9目の地域振興費ですけれども、今回のトルコ・シリアの地震の支援金は、国際交流事業の一環ということで考えております。国際交流事業は2款1項9目の地域振興費に計上しておりますので、この科目になっているというものでございます。

○委員長（竹花邦彦君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） ああなるほど。とすれば、今まで例えばウクライナの関係とかですね、そのほかにもあるかもしれません。台湾もあったかな。そういったときもここから、こういった款項目で支出していましたか。

○委員長（竹花邦彦君） 箱石企画課長。

○企画課長（箱石 剛君） これまでウクライナ、台湾等の災害に対しましては、市の公費から支出したというのはございません。赤十字とかの義援金の募集等は行っておりますけれども、今回のような、予算に計上して、市として支援金をお送りするというのは初めてでございます。今回は、東日本大震災を経験した我々にとっても他人事ではいられないほどの大きな災害ということで、その辺を勘案して、今回、災害支援金を送ろうというものでございます。

○委員長（竹花邦彦君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） なるほど、わかりました。

そこはちょっと確認だけでとは思いますが、いずれ今回ウクライナのが入ってない。今までも支出がない。そうだったなあという思いもしながら今聞いてたんですけれども、やはり人道支援という部分、赤十字経由す

るというのが前提かもしれませんが、そこがなくて今回シリア・トルコだけ出てきたっていう印象が逆にしてしまうんだけど、なぜウクライナ関係は予算支出をしないのかっていうのもちょっとクエスチョンなんですけども、そこはどういう判断、基準が違うんですか。災害と戦争は違うということでしょうか。

○委員長（竹花邦彦君） 多田企画部長。

○企画部長（多田 康君） 端的に申し上げれば、先ほど松本議員おっしゃったように発端となっているものが地震被害だったということが大変大きいかと思います。映像なり報道を見ますと、建物崩壊の状況、それから住まいを失って困っていらっしゃる方の映像等を見るに、我々の災害体験と重なるものがあったというものでございます。対してウクライナのほうは軍事侵攻というのが起因になってございますので、そこらは人道支援メインということで、赤十字のほうの対応、それから各種募金の対応をしているというものでございます。

○委員長（竹花邦彦君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） そうしますと、ちょっとこれも確認なんですけれども、市のこういった義援金、支援金を支出する根拠として、以前にもちょっと聞いたことがあると思う。額も含めてですね。そこをちょっと説明していただけますか。

○委員長（竹花邦彦君） 箱石企画課長。

○企画課長（箱石 剛君） 今回の基準でございますけれども、国外の災害に対する支援金、これについては明確に基準があるものでございませぬ。ただ、国内の災害につきましては、宮古市以外の市区町村に対する災害見舞金の支給基準というのを設けておりまして、そこで、姉妹都市等であれば、200万円以内ということで基準を設けております。この基準を参考にしながら、あとは災害の規模等を勘案して、今回、トルコとシリア合わせて、400万円ということで計上させていただいたものでございます。

○委員長（竹花邦彦君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） 国外は基準がないと、国内はあるということでしょうか。ですね。だとすれば、やはり今回、トルコ・シリア、これを支出することに何ら異議はないんですけれども、やっぱりしっかりと、そこを前提に、今後どうするかも含めて、額も含めて、これはそのときの状況、災害の規模とかっていう話もありますけれども、やはり東日本大震災を経験している宮古市とすれば、規模がじゃあどこで線を引くかっていうのもなかなか難しいのかなと。だとすれば、やはり人道的にどうなのかとかですね、軍事侵攻はだめだとは言いながらもね、やっぱりウクライナに関しても、議会においては当然、やっぱり支援は必要だという前提で、昨年対応してるわけですし、また場合によっては今後ですね、長期化することがあれば、あると思うんですけども、やはり今後どうするかもやっぱり考えていかなきゃなんない。シリア・トルコに関しては、もちろんこれは議会としても恐らく、今定例会議の中で実行するという前提だろうと思いますけれども、やっぱりそこは宮古市も、軍事侵攻とは言え、やはり、そういう今現状、悲惨な状況でありますから、災害だけではなくてですね、何らかの支援をしていくと。単に募金する、受ける。そしてつないでいく。だけではなくてね。必要なのではないかなというふうに思うんですが、そこは検討はどうなんですか。部長でもいいですよ。

○委員長（竹花邦彦君） ちょっと松本委員に確認をさせていただきます。

国外には支給基準がないというお答えをして、松本委員のほうからは、その支給基準の考え方を今質問してるわけですが、それは要するに地震等のこういった災害ではなくて、ウクライナ等を含めたそういったことに対する義援金の支給をすべきではないかという趣旨も含めた意味での支給基準、金額だけではなくてそういうことで。

○委員（松本尚美君） すいません、さっきの説明私が聞き間違えてるのかな、そうすれば。国内は基準がある。

○委員長（竹花邦彦君） 国外はなし。

○委員（松本尚美君） 国外はないってことですよね。それは前提ですけども。

○委員長（竹花邦彦君） だから、その言わば災害の種類も含めた支給基準みたいなものを明確にすべきではないかというふうなご質問で受け止めていいですか。

○委員（松本尚美君） そうです。

○委員長（竹花邦彦君） 多田企画部長。

○企画部長（多田 康君） 数年前から、基準は必要だろうということで一定の基準を設けてまいったところでございます。これまでの基本とすると、友好都市とか協力都市とか姉妹都市とか、そういう関係を前提に基準をつくってきたというものでございます。ただ、最近の災害の発生状況とかこういう国際問題の発生状況を見ると、一定の基準をつくりながらも、あとはケースバイケースというか臨機応変に対応していくことが大事だろうというふうに考えてございます。

あとは先ほどちょっと申し忘れたことがございまして、トルコに支援をするとなった発端についてちょっとお話をしたいと思います。

本州4端協議会ということで、本州の最北端、最東端、最南端、最西端で都市の会議を持っております。今年の1月に串本、最南端のまちで集まりがあつて市長ほかで参つてきたところでございます。そしてその4端でつながりのある串本。串本はエルトゥール号ってご存じでしょうか。過去に藩政時代だと思います。トルコの船が串本沖で難破をして、串本の方がそれを献身的に助けて、それから、トルコの方が親日になったというふうに言われています。今でもトルコと交流がございまして。それから最西端の下関市もイスタンブールと姉妹都市関係にあつて、それぞれ交流を続けているというものです。それからあとは東日本大震災の際にも、トルコの医療団、いち早く日本に駆けつけていただいて、最後の最後までトルコの医療団が残っていたというような経過がございまして。それからあと三陸鉄道、皆さん記憶にあるかあれですけども、三陸鉄道にもトルコ航空、いわゆるターキッシュエアラインという会社でございまして、そのラッピング列車が走ったり、多大な寄附をいただいたりということで、現在の我々の生活があるというものでございます。ですから、それらの要因も重なって今回予算化をして支援しようということで、今回の提案になっているものでございます。

○委員長（竹花邦彦君） 松本委員。

○委員（松本尚美君） はい、まずわかりました。

できればこういう予算を組んで提案する際に、その辺の説明があれば、聞かなくてもよかったのかなという思いが改めてするんでね。この件に限らないんですけども、ただはい、わかんなかったら聞いてくださいみたいな雰囲気だとやっぱりここは改善必要かなと。何かこうやりとりすると何かこう否定してるんじゃないかとかね、何かおかしいんじゃないかって疑問符を持ってんじゃないかとかっていうふうに思われても困るので、そこはぜひお願いしたい。

このウクライナ、内戦の部分も当然シリアはあるんで、なかなか、どうなのかなっていうのもねちょっとあったんでしょうけれども、しかし、やっぱり、シリアに関しては人道支援という部分、これもやっぱり必要だということですから、当然、ウクライナに関してもですね、これやっぱり人道支援の立場からすれば、やはり、比較するのもしれないかもしれませんが、もっと悲惨な状況だろうと思うんですね。だからそういったのもやっぱり勘案して、額の問題も当然ありますけれども、そこは、ぜひ検討して、今後どう対応するのかっていう

部分、長期化すれば、当然、もっとひどい状況になるかと思えますから、検討を要請したいということです。いかがでしょうか。

○委員長（竹花邦彦君） 多田企画部長。

○企画部長（多田 康君） 諸般の状況を見極める必要があろうかと思えます。今回トルコとの友好関係なり、そういう関わりをもとに公金での予算化というところに至ったものでございますが、今一足飛びに遡及をしてウクライナの支援をというような判断に現在は材料を持ち合わせてございませんので、それも含めて大いにこれから検討してまいりたいと考えてございます。

○委員長（竹花邦彦君） よろしいですか。

ちなみに多田部長、義援金は大使館ですか。それともどういうルートで。

箱石企画課長。

○企画課長（箱石 剛君） 今想定しておりますのは、トルコにつきましては、トルコの大使館のホームページに口座が設けられておりますので、まずトルコ大使館につきましては、直接大使館宛てに振り込みを想定しております。一方でシリアのほうですけれども、ご存じのとおりシリアの情勢の問題もあります。他市の事例なんかも参考にしてますけれども、現在考えてるのは、国際団体、赤十字であったり、そういった人道支援を行っている団体を通じた形での送金といいますか、支援を考えております。

○委員長（竹花邦彦君） よろしいでしょうか。

はい、松本委員。

○委員（松本尚美君） なるほど。やっぱり区別する。となればちょっと確認をしなきゃなんないのは、金額をですね、どうなるのかということですね。トルコには幾らなのか。シリアには幾らなのか。それも説明ちゃんとしてください。

○委員長（竹花邦彦君） 箱石課長。

○企画課長（箱石 剛君） 今想定しているのは1国あたり200万円ということで考えております。今お話ししたとおり、シリアにつきましては、情勢の問題、様々ありますので、執行するに当たってはその辺も考慮して決定をしたいと思っておりますけれども、今、計上している予算上は、200万円掛ける2国ということで、想定はしております。

○委員長（竹花邦彦君） いいですか。その他ないですね。

長門委員。

○委員（長門孝則君） 事業の内容ではなくてですね、この可決の順序の手順の件でちょっとお聞きます。というのは今は令和5年度の補正ですがね。

○委員長（竹花邦彦君） 令和4年度。令和4年度の一般会計補正予算。令和5年度の補正は改めて。

○委員（長門孝則君） ああそうですか。いいです。

○委員長（竹花邦彦君） よろしいですか。

そのほかありませんか。

ないようですので、以上で議案第51号 令和4年度宮古市一般会計補正予算（第16号）の審査を終了いたします。

説明員は退席願います。

〔説明員退席〕

○委員長（竹花邦彦君） これより議案第51号 令和4年度宮古市一般会計補正予算（第16号）に対する討論を行います。

討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹花邦彦君） 討論なしと認めます。

これより議案第51号を採決いたします。この採決は簡易表決で行います。

お諮りをいたします。

本案は原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹花邦彦君） 異議なしと認めます。

よって、議案第51号は、原案可決すべきものと決定いたしました。

以上で本日の日程は終了をいたしました。

皆さんにお諮りをいたします。

ただいま、本委員会に付託されました議案について、全会一致で可決すべきものと決定されました。よって、委員長からの提案ですが、本会議における委員長報告に対する採決については、討論を省略をし、採決するよう議長に申入れたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（竹花邦彦君） 異議なしと認めます。

よって、本委員会の委員長報告に対する採決については討論を省略をし、採決するよう私から議長に申入れたいと思います。

散 会

○委員長（竹花邦彦君） これをもちまして予算特別委員会を散会いたします。大変ご苦勞さまでございました。

午後 1時30分 散会

宮古市議会予算特別委員会委員長 竹 花 邦 彦